

教育に関する事務の点検及び評価報告書  
(令和4年度事業分)

令和5年9月



# 葛城市教育委員会

## 目次

	はじめに.....	1
1.	教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2.	教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3.	教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4.	教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5.	葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	11
6.	教育委員会事業評価シート.....	13
7.	点検及び評価のまとめ.....	61

## はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成27年4月1日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところで

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成20年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、令和4年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。6月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめました。

## 1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

### (1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

### (2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。  
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

## 2. 教育に関する事務の点検及び評価について

### (1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業(今回は令和4年度事務執行分)とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

## (2) 今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました(教育委員会事業評価シート(計画)・(実施内容)・(評価)各欄)。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました(教育委員会事業評価シート(有識者意見)欄)。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました(教育委員会事業評価シート(方向性)各欄)。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました(点検及び評価のまとめ)。

## (3) 点検・評価の経緯

### ①令和5年2月 定例教育委員会会議(令和5年2月21日開催)

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

### ②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

(令和5年6月12日・26日開催)

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

### ③令和5年8月 教育委員からの意見の聴取

教育に関する事務の点検及び事業評価についての意見を聴取しました。

### ④令和5年8月 教育委員の意見総括と最終決定

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

### ⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

(令和5年9月提出予定)

#### (4) 各事業の方向性

令和4年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	5件
現状のまま継続する	12件
見直しのうえ継続する	5件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	0件
終了・完了	1件

(主要施策ごとの評価は、P15～P60 に掲載)

### 3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充(元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員、  
歴史博物館協議会委員)

川中 教正(當麻寺奥院 副住職)

(主要施策ごとの評価は、P15～P60 に掲載)

#### 4. 教育委員会の運営及び活動状況

##### (1) 教育長及び教育委員について

教育長及び教育委員は下表のとおりです。(令和5年9月1日 現在)

職名	氏名	備考
教育長	椿本 剛也	
教育長職務代理者	森 吉文	
委員	高木 希容子	
委員	高橋 真一	
委員	山口 容視子	

##### (2) 教育委員会議及び審議状況について

令和4年度は合計で13回の委員会を開催し、審議事項35件、協議報告事項32件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市教育委員会教育長職務代理者の指名について</li> <li>・葛城市立図書館資料の除籍基準及び除籍資料等の無償譲与に関する基準について</li> <li>・葛城市社会体育団体運営補助金交付要綱の一部を改正することについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会人事異動について</li> </ul>
5月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市文化財保護審議会委員の委嘱について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市人権教育推進協議会理事の選出について</li> <li>・令和4年度学校教育課程について</li> </ul>

開催日	審議事項	協議報告事項
6月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市就学指導委員会規則の一部を改正することについて</li> <li>・葛城市立学校における通級による指導実施要項の一部を改正することについて</li> <li>・工事請負契約の締結に対する意見聴取について（新庄スポーツセンター耐震改修及び屋根改修工事）</li> <li>・工事請負契約の締結に対する意見聴取について（葛城市立新庄中学校南東部擁壁改修工事）</li> <li>・財産の取得に対する意見聴取について</li> <li>・令和4年度葛城市一般会計補正予算（第2号）に対する意見聴取について</li> <li>・令和4年度葛城市学校給食特別会計補正予算（第1号）に対する意見聴取について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員の委嘱について</li> <li>・学校給食運営委員（PTA代表）の委嘱について</li> <li>・令和5年「二十歳の集い」について</li> </ul>
7月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市学校給食センター条例施行規則の一部を改正することについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員の委嘱について</li> <li>・令和4年度 教育に関する事務の点検及び評価について</li> <li>・葛城市當麻複合施設整備基本方針（案）〈概要〉について</li> </ul>
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・令和4年度葛城市一般会計補正予算（第3号）に対する意見聴取について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 教育に関する事務の点検及び評価報告書について（最終確認）</li> <li>・卒業式の期日について</li> </ul>

開催日	審議事項	協議報告事項
9 月 18 日	なし	なし
9 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市新型コロナウイルス感染症対策に係る学校給食費の減免に関する要綱の一部を改正することについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度近畿市町村教育委員会研修大会の開催について</li> <li>・蓮花のAI相談室現状報告</li> <li>・葛城市教育委員会指定研究発表会について</li> <li>・先進地視察報告（愛知県岡崎市）</li> <li>・みんなで新しい複合施設を考えるワークショップについて</li> </ul>
11 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度葛城市一般会計補正予算（第5号）に対する意見聴取について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 奈良県市町村教育委員会連合会研修大会の参加について</li> <li>・夏期休業期間の短縮から10年間の総括について</li> </ul>

開催日	審議事項	協議報告事項
11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市教育委員会事務局組織規則の一部を改正することについて</li> <li>・葛城市教育委員会事務局決裁規程の一部を改正することについて</li> <li>・工事請負契約の締結に対する意見聴取について（葛城市立白鳳中学校南棟長寿命化改修工事）</li> <li>・令和4年度葛城市一般会計補正予算（第6号）に対する意見聴取について</li> <li>・令和4年度葛城市学校給食特別会計補正予算（第2号）に対する意見聴取について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市教育委員会委員の任命について</li> <li>・令和4年度市町村教育長・教育委員研究協議会について</li> <li>・二十歳の集いについて</li> </ul>
12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市学校給食運営委員会委員の推薦について</li> <li>・葛城市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について</li> <li>・葛城市いじめ問題対策連絡協議会・いじめ問題対策委員会について</li> </ul>
1月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市文化財保護審議会委員の委嘱について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市森林環境教育推進事業補助金交付要綱を制定することについて</li> <li>・葛城市歴史博物館運営協議会委員の委嘱について</li> <li>・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について</li> <li>・葛城市学校給食運営委員会委員の委嘱について</li> <li>・学校給食主食納入業者の選定について</li> </ul>

開催日	審議事項	協議報告事項
2月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市学校医の委嘱について</li> <li>・葛城市学校薬剤師の委嘱について</li> <li>・葛城市教育委員会障害者活躍推進計画（案）の策定について</li> <li>・葛城市スポーツセンター条例の一部を改正することについて</li> <li>・葛城市体育館条例の一部を改正することについて</li> <li>・葛城市運動場条例の一部を改正することについて</li> <li>・葛城市歴史博物館条例の一部を改正することについて</li> <li>・令和4年度葛城市一般会計補正予算（第8号）に対する意見聴取について</li> <li>・令和5年度葛城市一般会計予算に対する意見聴取について</li> <li>・令和5年度葛城市学校給食特別会計予算に対する意見聴取について</li> </ul>	なし
3月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市幼稚園型一時預かり事業補助金交付要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>・葛城市教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規程の一部を改正する規程について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛城市学校医の委嘱について（訂正報告）</li> <li>・葛城市学校運営協議会委員の委嘱について</li> <li>・葛城市當麻複合施設整備基本計画（中間報告）について</li> </ul>

### (3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・各幼稚園、小・中学校入学式（4月7日～11日）
- ・各幼稚園訪問（5月27日～6月3日）
- ・総合教育会議（7月15日）
- ・各幼稚園、小・中学校運動会（9月22日～10月26日）
- ・近畿市町村教育委員会研修大会（11月1日）
- ・奈良県市町村教育委員会研修大会（11月16日）
- ・各小・中学校訪問（10月20日～11月21日）

- ・二十歳の集い(1月9日)
- ・教育委員会人事具申ヒアリング(1月20日)
- ・葛城市立学校初任者研修会(2月7日)
- ・総合教育会議(3月14日)
- ・各幼稚園、小・中学校卒業式(3月14日~17日)

都市像	政策の柱
<p>歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて 愛される住みよい共存の都市 葛城</p>	<p>調和・共助 ～多種多様な価値観が共存するまち～</p>
	<p>壮健・学習 ～心と身体が健やかに育まれるまち～</p>
	<p>活力・安全 ～にぎわいあふれる安心なまち～</p>

## 政策目標

## 施策目標

市民みんなが活躍できる社会の構築

高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする  
女性が積極的に社会進出できる社会を形成する

豊かな自然の保全・継承

循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める  
森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める

歴史・文化と調和的な地域づくり

歴史や文化の保護・活用を図る  
時代の変化を踏まえた地域づくりを進める

誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり

未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸  
安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり  
運動の場の形成を通じた市民の健康の増進

教育・学習による未来の市民づくり

子どもの健全な育成に対する各種支援を行う  
基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める

生涯学習による豊かな心の涵養

芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する  
人権教育により差別のない社会を形成する

住みよいまちを支える社会基盤の実現

基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める  
管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する

産業振興による地域の稼ぐ力の向上

農商工業の地場産業を育成し、活性化させる  
観光業の振興によるまちの賑わい創出

安心・安全な生活環境の整備

自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする  
地域の防災体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

## 6. 教育委員会事業評価シート

【令和4年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

- 事業 No. 1 葛城市学校施設長寿命化改修事業
- 事業 No. 2 学校施設各所改修工事
- 事業 No. 3 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業
- 事業 No. 4 学校情報化推進事業(電子黒板等設置事業)
- 事業 No. 5 学校給食事業
- 事業 No. 6 葛城市民歌壇事業
- 事業 No. 7 読書活動支援・講座
- 事業 No. 8 ブックスタート事業
- 事業 No. 9 電子図書館事業
- 事業 No. 10 二十歳の集い式典事業
- 事業 No. 11 青少年健全育成事業
- 事業 No. 12 学校・地域パートナーシップ事業
- 事業 No. 13 生涯学習まちづくり推進大会事業
- 事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務
- 事業 No. 15 中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業
- 事業 No. 16 地区館教室・講座事業
- 事業 No. 17 文化振興事業
- 事業 No. 18 展示(常設展・特別展等)事業
- 事業 No. 19 歴史講座開催事業
- 事業 No. 20 埋蔵文化財等調査事業
- 事業 No. 21 各種教室開催事業
- 事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業
- 事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

教育委員会事業評価シート

		事業No.	1
事務事業名	葛城市学校施設長寿命化改修事業	担当課名	教育総務課
係名	施設係	施設名	磐城小学校・白鳳中学校

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	学校施設の長寿命化計画に基づき、教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。			
事業の内容	磐城小学校特別教室棟（RC造 3階建て 708㎡）について内外装の改修を実施した。 白鳳中学校南棟（RC造 3階建て 2,684㎡）については、令和4年度から令和5年度にかけての事業として、内外装の改修を行っている。			
事業対象	磐城小学校・白鳳中学校			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		9,623	156,543	338,844
		内一般財源	9,623	110,143	247,512	
		内国・県補助金	0	46,400	91,332	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	2,088	2,806	3,509	
		総コスト①+②	11,711	159,349	342,353	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	施工	千円	0	154,013	304,090
		設計	千円	9,623	0	30,673
		監理	千円	0	2,530	4,081
	事業成果			磐城小学校特別教室棟及び白鳳中学校南棟の改修工事実施設計	磐城小学校特別教室棟の改修工事及び白鳳中学校南棟の改修工事(第1期)	白鳳中学校南棟の改修工事(第2期) 新庄小学校・新庄中学校の改修工事設計業務

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	建築から年数が経過し建物の内外ともに老朽化が進んでいることから、外装では屋上防水や外壁改修により建物への雨水の侵入を防ぎ躯体の長寿命化を図るとともに、内装の改修、設備の更新により時代のニーズを反映させながら、引き続き長く使用できる建物となるよう改修を行った。			
事業の課題・問題点	学校運営をしながら工事を行うため、授業実施中に音出し工事をするなど授業への影響が懸念される。学力テストやヒアリング等の際には施工を中断するなど、学校運営への影響を少なくするための調整が必要となる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	引き続き学校施設の長寿命化計画に基づき、教育施設の危険箇所・老朽箇所の改修を行っている。長期的な維持については、丁寧な施設利用を呼び掛けるとともに、不具合がある場合には早期に連絡いただき対応するようにしている。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	市内各学校施設では近年、耐震や空調設備、近代的トイレ導入などの工事を続けざまに行ってきた。しかしRC造の校舎の設計寿命である築後40～50年が近づく中で、根本的な改修、刷新は適宜行わなくてはなりません。本事業は建物の診断を行った上で耐用年数を20～30年延長するものであり、学習現場の安心安全のため、またいざというときは避難所にもなる学校施設を保つ必要な事業です。 長寿命化計画を作成され、計画的に教育施設の改修を行っている。また、児童・生徒にできるだけ悪影響を与えないように工期時期や休日作業等の調整に取り組むとともに丁寧な施設利用の呼びかけを行い、十分評価できる。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	施設の長寿命化は大規模な改修工事となることから、教育環境への影響が多大であると認識し、学校と連携しながら児童・生徒にできるだけ悪影響を与えないように仮設計画や工期、作業時間等の調整を綿密に行い、工事期間中においても安全で安心な教育環境を維持するよう務めてまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	学校施設各所改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施設名	市内各学校施設

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。			
事業の内容	<p>より良い教育環境を築くため、市内学校施設の建物・設備の中規模程度の改修工事を実施した。</p> <p>主な項目としては、新庄小学校では管理棟2階コンピュータ教室間仕切り設置を、忍海小学校では南棟1階教室等への網戸の設置、南棟2階コンピュータ教室間仕切り設置、運動場南側ブロック塀補修、体育館南側出入口階段段鼻補修、体育館南側側溝蓋整備及び西棟西端校務員室外側波板補修を、磐城小学校では管理棟2階コンピュータ教室間仕切り設置、北棟3階音楽室カーテン取替え、配膳室棟南面パン受取台改修及び北中棟1階教室の模様替えを、新庄北小学校では正門郵便受け取替を、新庄中学校ではテニスコートフェンス支柱基礎の補修及び間仕切り扉窓枠の改修を、白鳳中学校では北棟屋上防水部分改修を、新庄北幼稚園では日除けオーニングの設置を、當麻幼稚園では柱等の取替を行った。</p>			
事業対象	各学校施設			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①	7,639	6,475	8,920	
		内一般財源	7,639	6,475	8,920	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	2,784	1,403	1,403	
		総コスト①+②	10,423	7,878	10,323	
実績と 成果	区 分	単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)	
	事業実績		千円			
	事業 成果	工事箇所	主な内容 【忍海小、磐城小】渡り廊下滑り止め施工 【新庄北小】プールフェンスの改修 【當麻小】網戸の設置 【新庄中】側溝整備 【新庄北幼】天井付扇風機の増設 【當麻幼】職員・来客用トイレの洋式化	主な内容 【新庄小、磐城小】教室間仕切り設置【忍海小】網戸の設置等【新庄北小】正門郵便受け取替 【新庄中】テニスコートフェンス支柱基礎の補修等【白鳳中】北棟屋上防水部分改修【新庄北幼】日除けオーニングの設置 【當麻幼】柱等の取替	主な内容 【當麻小】北館1階東出入口枠改修【新庄中】プールサイド部分補修、普通教室の黒板改修【白鳳中】北棟屋上タラップ取替え【新庄幼】保育室前の雨避けの設置【新庄北幼】門扉の塗装【忍海幼】保育室扉の改修	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	各学校園からの要望について、児童・生徒・園児の衛生面、安全面、利便性の向上等を検討し、緊急性の高いものを本事業で施工することにより、より良い教育環境の維持と施設全体の長寿命化にも繋げることができた。			
事業の課題・問題点	各学校園とも、建築より相当年数経過した建物・設備が多く、修繕を必要とする箇所が増加の他、社会の変化に伴う要望も多くあるが、予算を含め全てに対応することは困難である。子どもの命を第一に考え、緊急を要する箇所から着手することとし、安全で安心できる教育施設的环境づくりを進める必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	各学校園との連携を密にし、不具合箇所があれば都度現地確認のうえ、特に安全性に関わる部分や学校生活に影響がある部分については早期に対応を行うなど、安心安全の確保に努めている。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	毎年、施設点検を定期的実施され危険箇所の早期発見・修繕・改修し、教育施設の環境整備に取り組んでおり、十分評価できる。これからも、各学校園からの要望にできるだけ応えられるような予算を計上し、安心・安全な教育環境づくりに取り組んでください。 数百人の児童生徒・職員が集い、ほぼ毎日稼働するのが学校施設です。当然、建物設備には大小様々な綻びが生じますし、また時流や児童生徒数の変動にも応じていかなければいけません。本事業は教育現場からの要望を受け、緊急性を要するものを優先的にしつつ、順次中小規模の改修を行うものです。またリスト外にも業者に依頼せず、職員が手作りで補修を行うなど、日々の努力で教育環境が維持されています。
-----------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市内の学校施設は建築年も古い建物が多く、改修を必要とする範囲は、建物本体、電気設備や機械設備と多岐に渡って存在します。引き続き学校からの意見・要望をふまえ、優先順位を見極めながら、安全で安心な学校環境の整備に必要な処置を講じるよう取り組んでまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	JFAこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施設名	小学校

(計 画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	市内全小学校の5年生を対象に、日本サッカー協会よりアスリート等の派遣を仰ぎ「夢をもつこと」「協力すること」の大切さをゲーム及び講話を通じて指導いただく。			
事業の内容	<p>JFAこころのプロジェクト「夢の教室」委託事業とは、日本サッカー協会から様々なスポーツのトップアスリートやアナウンサーなどが夢先生として、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さを学ぶ事業であるためです。この授業によって子ども達の心身の健全な発達に貢献していくプロジェクトであり、「DREAM 夢があるから強くなる」をスローガンに掲げ、「夢」をテーマにしている取組であります。</p> <p>対象は小学5年生であり、令和4年度は、委託事業者より新型コロナウイルス感染症を考慮したうえで対面では実施できないとの連絡があり、リモートにより実施しました。</p>			
事業対象	市内の小学5年生			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		2,002	975	2,006
		内一般財源	2,002	975	2,006	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	0	0	0	
		総コスト①+②	2,002	975	2,006	
実績と成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	対象人数	人	800	373	400
	事業成果	夢を持ちたいと思う気持ち	%	61.00	63.00	100.00
		努力することの大切さ	%	47.00	50.00	100.00
友人を大切にすること		%	74.00	76.00	100.00	
人に感謝する気持ちを持つこと		%	63.00	69.00	100.00	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	○施策目標である「子どもの健全な育成に対する各種支援を行う」に対し授業前、授業後に同じ質問内容でアンケートを行い、子ども達の意識の変化を評価指標にしたいと考える。 ○事後アンケートにて、「夢を持ちたい」といった夢に対する思いが増えていること、また、「努力すること」「失敗してもあきらめないこと」「勉強をすること」や、「助け合い、人に感謝する気持ちを持つこと」「人の話をよく聞いて参考にすること」「積極的にチャレンジすること」などの項目において夢を実現するために必要だと感じた子どもが増加しており、当該事業の目的である「仲間を思いやることや、仲間と協力すること、夢を持つことの大切さ、失敗を乗り越えて夢や目標に向けて努力しようとする意識や態度を育む」に合致している。			
事業の課題・問題点	令和4年度においてもリモート授業での実施であった。年度当初に東京からの日帰り圏外についてはリモート授業で実施する通知があり、委託先と対面実施で実施したい旨強く希望したが、対面による実施はできなかった。費用については対面による授業の半分程度の費用であったが、教員アンケートにおいても対面を望む声が多くあることから対面の場合の実施費用を削減できるよう検討していく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	前年度に引き続き、令和4年度はリモート授業での実施となった。対面での実施が難しくなったことから、少しでも子どもたちが興味を持てるように、各学校で希望業種(サッカー、バスケット、野球など)を第3希望まで要望してもらい、その希望に反映していただくよう委託事業者に依頼した。今後、対面による実施においてもこれらの希望を聞いたうえで実施できるよう取り組みたい。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度も、リモート授業ではあったが、対象児童からの希望をとりニーズにあった授業により近づけた内容になり、評価できる。事前・事後にとるアンケート内容では、今後の課題が見えにくいように思う。この事業の目的達成に向け、アンケート内容の再検討をお願いしたい。 県内他市町村と比較し、市小学校教育の特色の一つでもある事業です。第一線で活躍された方々の経験を通した貴重な話を伺うことで、教科書だけでは触れることのできない人生の歩みについて児童に考える機会を提供しています。コロナ禍においてリモートでの制限があり、必ずしも期待される効果を発揮できなかったかもしれません。対面での授業が再開されれば、子どもたちの未来により寄与する事業になると考えます。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和5年度については、数年ぶりに対面による事業実施ができる方向である。また、委託料についてもできる限り削減できる方法を協議するとともに、アンケート内容についても今後の課題が見えるようなアンケートにできるよう事業者と協議していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	学校情報化推進事業 (電子黒板等設置事業)	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施設名	小学校及び中学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	国の「GIGAスクール構想」により、児童・生徒一人一台端末の配備が完了し、今後は多様な子ども達一人ひとりが個別最適化された学びにより、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現や、今後普及していくデジタル教科書をはじめとするデジタルコンテンツを効果的に活用した学習活動の充実を図るため。			
事業の内容	小学校5、6年、中学校全学年の普通教室に電子黒板機能付きの大型提示装置及び書画カメラを計58教室分調達した。また、使用方法や授業への活用方法について、教員向けの研修会を実施した。令和4年度においては地方創生臨時交付金を活用して100%補助金の事業実施であり、一般競争入札により安価に契約できたため、契約差金と追加で補正予算計上を行い、小学校3、4年生の普通教室に電子黒板機能付きの大型提示装置及び書画カメラを計27教室分追加で調達した。			
事業対象	市内小学校3～6年生、中学校全学年、及び対象教員			
事業年度	<input type="checkbox"/>	区分指定無	<input checked="" type="checkbox"/>	4 年度 ～ 6 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		39,757	15,385	
		内一般財源	0	15,385		
		内国・県補助金	39,757			
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②	0	39,757	15,385	
実績と 成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業 実績	導入数	台		85	27
	事業 成果	使用教員	人		100	180
		利用率	%		85	100

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>A</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度は電子黒板の導入当初の年度であり、まずは教員が電子黒板の操作に慣れる意味合いも含めて、教員に対してどの程度活用しているかアンケートを行った。結果、大部分の教師がほぼ毎日使用しているとの回答があり、当初想定していたよりも大幅に上回る活用状況であった。今後は、ただ使うだけでなく、子どもたちにわかりやすい授業を行えるように取り組んでいきたい。			
事業の課題・問題点	導入した電子黒板については、教職員のPCと接続することも出来ることから、教員が授業用で作成した資料やデジタル教科書についても活用することが出来る。ただし、現在教員に配布しているPCの動作が遅いため、活用しにくいと聞いている。令和5年度の夏に教職員用のPCの入れ替えを予定しており、導入後にはこれらの教材を活用しやすくなると考えている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	令和4年度より事業実施のため特になし。
-------------------	---------------------

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度からの新しい事業であり、この事業の目的達成に重要なのは、設備及び教える側の教師の力量が問われてくる。その対策として、教師の研修会及びパソコンアドバイザー3名を活用できる体制を整え実施できたことは、十分評価できる。これからも、デジタルコンテンツを活用した学習活動の充実に取り組んでください。 コロナ禍において一気に進んだ学校のデジタル化。デジタル端末が児童生徒の必需品となった今、学校教育の現場も大きく変容しています。近隣市町村に比べて葛城市は電子黒板の導入率が高く、また授業現場でも実際に活用されています。現在一部の学校では、海外の学校とリアルタイムで繋がる交流授業や、様々な事情で不登校になってしまった児童生徒が安心して授業が受けられるように活用するなどの事例があり、今後更なる活用と広がりが期待できます。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえた 担当課意見・ 数値目標等)	令和5年度の2学期より、小学校・中学校の全学年に電子黒板の導入が完了するとともに、教員用のパソコンについても新たに更新する。これらの機器と各学校に配置しているICT支援員を活用し、子どもたちへのわかりやすい授業を行うだけでなく、交流授業などの活用例を更に広げていけるよう取り組んでいきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校教育課 (学校給食センター)
係名	学校給食センター	施設名	学校給食センター

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。			
事業の内容	<p>葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園4園・認定こども園1園・小学校5校・中学校2校と適応指導教室に、給食数1日約4,200食を調理・配送する学校給食事業を実施している。</p> <p>安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するために、献立の作成や食材の選定を行い、学校給食衛生管理基準に基づき、全ての学校給食関係者の意識の徹底を図っている。</p> <p>食育の取組では、地産地消を推進して地元産の米や野菜への理解を深め、毎月の「給食だより」に旬の野菜等の説明を入れて食への関心を高める。また、食物アレルギーにも対応した給食を提供している。</p>			
事業対象	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校の園児・児童・生徒			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		362,985	382,756
内一般財源			183,956	185,824	242,295	
内国・県補助金			58,775	78,358	383	
内受益者負担			120,254	118,574	183,967	
人件費 ②			21,041	14,965	24,155	
総コスト①+②			384,026	397,721	450,800	
実績と成果	事業実績	区 分	単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
		給食材料費	千円	206,469	220,274	241,210
		内市費	千円	27,440	27,465	57,243
		内保護者負担金	千円	120,254	118,574	183,967
	内国補助金	千円	58,775	74,235	0	
	事業成果	給食人数	人	4,224	4,170	4,257
給食数		食	745,987	736,162	804,573	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	地場産物として、米は100%葛城市産のヒノヒカリの使用を継続している。また、旬の野菜は市内産を使用できるよう、納入業者から情報収集を行い、季節感のある献立作成に努めている。令和3年度から年に1回給食アンケートを行うとともに、児童等に人気のメニューを取り入れるリクエスト献立を実施し、おいしい・楽しい給食を提供するべく工夫している。物価の上昇により原材料費が年々増加しているが、給食費は平成26年の消費税増税分の値上げ以降は値上げを行っていないため、市からの助成金も増加している。			
事業の課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消に関する取組(安定的な質・量の確保)</li> <li>・給食材料費の価格上昇</li> <li>・学校給食負担金の見直し</li> <li>・給食設備の計画的な修繕</li> <li>・異物混入対策</li> </ul>			

評価を受けての改善点(過去3年間)	地場産物の米、葉ネギについては継続的に使用しているが、野菜は天候の影響により安定的な確保が難しいということから、令和4年度に農林水産省の地産地消コーディネーター派遣事業を活用し、コーディネーターからアドバイスをいただいた。 給食負担金については、給食材料費の値上がりや物価高騰による家計への負担の影響を鑑み、地方創生臨時交付金を活用し、4ヶ月間の給食費の無償化と、給食費を据え置く事業を実施した。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消についても国の地産地消コーディネーター事業を活用し、安定した供給に取り組んでおり評価できる。これからも、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するためにも、学校給食関係者の衛生管理意識の向上及び施設の保守点検業務に力を注いでいただきたい。また、給食材料費の価格上昇により、給食費の見直しを検討するとともに給食費未納についても取り組んでいく必要がある。 近年の急速な物価高騰は家庭環境、特に家庭の食事環境に影響しています。子どもに食事や居場所を提供する全国の子ども食堂のアンケートでは八割が物価の影響があるとの回答があり、子どもにとって給食の重要性は増えています。保護者への給食負担金の増額は過去から重ねて議論される場所ですが、令和3、4年度と補助による減額措置があったため、補助の打ち切りと増額が重なった場合は、保護者への負担増を大きく印象づける可能性があるため、慎重な議論が必要です。 また、食育の観点で、今までは地産地消や栄養価などの教育活動については行われてきましたが、近年のSDGsの視点から今後は食品ロスや残飯の堆肥化など処理の食育も必要になってくると思われます。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	物価高騰の影響で原材料費は上昇し続けているが、栄養バランスのとれた安心・安全な給食を継続して提供していく。食育では、給食がどのように作られて子どもたちのもとに届いているか、給食の栄養価について、給食に使われている地場産物等を中心に行っていたが、今後は学校と連携し、食物残渣についての学びを深められるようにしたい。また、各学校等で開催される試食会では保護者の学校給食に対する理解を深めるよう努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	葛城市民歌壇事業	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。			
事業の内容	令和3年度に終了した「葛城歌壇」の趣旨を引継ぎ、短歌を通して人と人が交流し、互いに創作への意欲を高めあい、共に学びあう機会をつくるため「葛城市民歌壇」を設置し、葛城市民から短歌を募集した。令和4年度は応募者数43名から 79首の短歌が出詠された。 選者により応募作品の選考が行われた結果、最優秀賞作品2作、優秀賞2作、選者賞6作が選ばれ、2月の「葛城市生涯学習まちづくり推進大会」で最優秀賞2名の表彰式を行った。			
事業対象	市民(大人)			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		1,244	71
内一般財源			1,083	71	67	
内国・県補助金			0	0	0	
内受益者負担			161	0	0	
人件費 ②			2,472	923	923	
総コスト①+②			3,716	994	990	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	選者講師謝金	千円	190	40	40
		印刷製本・送料	千円	950	10	10
		短歌講座講師	千円	20	—	—
		各種奨励費	千円	85	—	—
	事業成果	応募者数	人	1,555	43	60
		応募作品数	首	1,770	79	120
		大会参加者数	人	0	—	—
		短歌講座参加者数	人	19	—	—

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	C	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度から葛城市民のみを対象にした「葛城市民歌壇短歌募集」を開始した。市内の応募者数は、前年度の「葛城歌壇」とほぼ同じであったが、令和4年度は20代の若者の作品が選者賞に入賞した。この実績を若い世代にも短歌が広がるきっかけにしたい。 令和4年度は出詠者を葛城市民に限定したことで出詠数が減ることになり、作品集も外注せず、図書館で作品集を作成することにしたため、印刷代の削減になった。			
事業の課題・問題点	応募者を増やすことが一番の課題である。令和4年度に出詠された方を維持するとともに、新たな出詠者を生み出すことに努め、「葛城市民歌壇」を発展させたい。 令和4年度は20代の若い世代が入賞したことで、短歌が若者にも気軽に作れることをPRするとともに、幅広い年代から出詠してもらえるような取り組みが必要である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	令和4年度の「葛城市民歌壇」の表彰式を、2月に新庄文化会館で開催された「生涯学習まちづくり推進大会」で行った。最優秀賞の二作品をパネルに張り出し、作品集も自由に持ち帰ってもらうように並べ、「葛城市民歌壇」の周知を行った。 令和5年度も他の部署のイベントと連携するなど、相乗効果を活用し広く周知に努めていきたい。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度より、葛城市民のみの対象により応募者数が減少したが去年度までの葛城歌壇事業の市内の応募者とはほぼ同じである。しかし、市民のみの対象ではあるが、応募者数が少なすぎる。今後、応募者数の増加に力を注いでいく必要がある。そのためにも、多くの市民に啓発し、短歌に親しめる環境を整える必要がある。特に小・中学校に働きかけていくことも一つの方法と考える。 葛城市が短歌のふるさとであることを広めるべく、市外や国外からも応募があった事業であるが、事業経過年数と費用面を鑑みて事業形態を見直し、原点に還って市民対象へと舵を切りました。小中学校に公募していないので現在の応募数が市内での純粋な短歌の認知度とニーズといえます。しかし、現在SNSなどを通じて若者の間で短歌の人気は上昇しており、現代を反映した新しい文化へと成長しています。現状の広報誌などの限られた媒体での広報ではなく、時代に応じた発信をすることで、短歌のふるさと葛城を再発信できるチャンスと有していると考えます。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえた) 担当課意見・数値目標等	令和4年度から葛城市民のみを対象に短歌を募集することになったが、一番の課題は応募者数を増やすことである。特に若い世代に応募してもらえるような仕組み作りが必要である。 新たな応募方法としてSNSを活用することも検討したい。また、令和4年度には募集をしなかった「子どもの部」についても、令和5年度では募集する計画である。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、図書館利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。			
事業の内容	図書館では、葛城市民が自らの生き方を豊かなものにするため、生涯を通じて学ぶ機会となる様々な講座を開催し、市民の知識の習得と向上を目指している。 (読書活動支援) おはなし会、英語の絵本の読み聞かせ、おりがみ教室、読書マラソン、1日図書館員、テーマ別図書の展示 (図書館講座) 成人対象…「セカンドライフプラン」、「文学講座(万葉集)」 児童対象…「手作り講座(牛乳パック工作、消しゴムはんこ)」、「手品教室」			
事業対象	市民(大人・子ども)			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		10	20	40
内一般財源		内国・県補助金	10	20	40	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	2,575	1,275	1,300	
総コスト①+②			2,585	1,295	1,340	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	子ども対象事業講師料	千円	10	20	20
		成人対象事業講師料	千円	0	0	20
	事業成果	子ども対象事業	人	347	904	1,428
		成人対象事業	人	0	27	60

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度はコロナの影響がある中で、1年を通じて様々な事業を実施することができた。「おはなし会」や「英語の絵本の読み聞かせ」は、コロナで減った参加者も徐々に回復傾向にある。また、児童を対象にした講座はアマチュアマジシャンを講師に迎え「手品教室」を行った。その他、「おり紙教室」、「牛乳パック工作」、「消しゴムはんこ教室」は、図書館の職員が講師となって実施した。 成人を対象にした講座は、年金をテーマにした「セカンドライフプラン」と万葉集を学ぶ講座を実施した。PR不足で定員を満たせなかったが、今後はしっかりPRに努め、多様なテーマで講座を実施したい。			
事業の課題・問題点	講座を実施するには外部から講師を迎えるため、講師謝礼を毎年予算化している。しかし、少額なため、講座の実施回数も限られる。そこで令和4年度は図書館職員が得意とする分野を活かし、職員が講師になり手作り講座を実施した。今後も職員でできることを考え実行していきたいが、職員数も減らされているため、安定した事業の実施が難しい状況である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	3年ぶりに講座を実施することができたが、思うほど参加者は増えなかった。テーマの設定やPR不足が原因と思われる。図書館講座は市民に学ぶ機会を提供する役割があり、市民のニーズに合う講座の実施が求められるため、市民から要望を聞き、市民の暮らしに役立つ事業の実施に努めたい。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度もコロナの影響のある中で、様々な事業を実施され、講座等においては外部講師だけでなく図書館職員を活用するなどして読書活動普及に取り組まれており評価できる。できれば、広報だけでなく、いろんな団体や市内の各施設(掲示等)を活用した啓発活動にも力を注いでいく必要がある。 毎年実績を積み重ねてきた事業であるが、コロナ禍の制限によって参加人数の減少を招いています。極めて低い予算で事業を行っていますが、生涯学習の機会提供、図書館利用推進、児童への読書環境の提供など図書館が果たすべき要素を満たしています。まずはコロナ以前に実施出来ていた内容の回復が望まれます。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	普段の図書館業務と並行しながら講座や事業を実施しているため、規模の大きな事業の実施は難しいが、出来る限り多種多様な講座を開き、多くの市民に参加してもらえよう取り組みたい。 また、市民から学んでみたい講座の内容を聞き取り、市民のニーズに合うテーマで講座の計画を立てるとともに効果的な周知方法を考え啓発に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	絵本を介して、赤ちゃんと保護者が触れ合う機会をつくれるよう、行政と地域が連携して子育てを支援する。			
事業の内容	<p>ブックスタート事業は、絵本を活用しながら赤ちゃんや保護者がコミュニケーションを深め、楽しいひと時を共に過ごすことを目的とした活動である。毎年、健康増進課が実施する4ヵ月児健康診査に合わせて、おはなしボランティアの協力を得ながら実施してきた。</p> <p>しかし、新型コロナウイルスによる感染防止対策のため、図書館職員とおはなしボランティアは参加せず、健康増進課を通して赤ちゃん絵本やブックスタートのパンフレットなどを配付している。</p> <p>また、ブックスタートが実施できないため、図書館独自の事業として毎月、就園前までの乳幼児を対象に「もぐちゃんと絵本」を開き、絵本の読み聞かせ・手遊び・わらべうたを、親子で一緒に楽しめる機会をつくった。</p>			
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃん・就園前までの乳幼児・保護者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算
		直接事業費 ①	156	228	215
内一般財源	内国・県補助金	156	228	215	
	内受益者負担	0	0	0	
	人件費 ②	0	0	0	
		総コスト①+②	678	179	179
			834	407	394

  

実績と成果	区 分	単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
			ブックスタート	千円	156
事業実績	絵本	冊	225	300	300
	アドバイスブック	冊	225	300	300
事業成果	ブックスタート	組	308	282	300
	もぐちゃんと絵本	人	0	42	100

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	C	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	コロナ禍で、ブックスタートを行う4ヶ月児健診に図書館職員とおはなしボランティアは参加できないため、赤ちゃんと保護者に直接接することができない状態が続いている。そのため令和4年度も、ブックスタートの絵本とアドバイスブックは保健師を通じて配付した。			
事業の課題・問題点	コロナ禍以前は、ブックスタートの機会を活かし、参加した赤ちゃん一人ひとりにはおはなしボランティアが絵本の読み聞かせを行い、保護者には絵本の魅力を伝えるなど、親子とのコミュニケーションを図ることができた。しかし現在は、絵本と資料の配付のみで、十分な取組ができていない。ブックスタート事業が再開されるまでの間、ブックスタートに代わる取組を行う必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	ブックスタート事業の再開が不透明な状況ではあるが、ブックスタートはボランティアの協力が必須なため、今年度もボランティアの募集と育成に努め、再開に向けた準備に備えた。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度もコロナ禍で、本来の取り組みができなかったが、保健師と協力して絵本とアドバイスブック及び絵本のチケット配布、図書館では「おはなし会」や絵本の読み聞かせの取り組みを実施し、十分評価できる。しかし、この事業はボランティアが重要な役割を担っているため、ボランティアの確保に力を注いでいく必要がある。 優れた実績を積み重ねてきた事業でありましたが、コロナの影響を受けて、効果が制限されてしまっています。乳幼児が対象なので完全再開の判断についても慎重な議論が必要です。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	コロナ禍でブックスタートの活動が十分に行えていない状況にあるが、再開に向け準備を進める。特にブックスタートの活動で要となるボランティアの確保と育成に取り組むたい。また、ブックスタートの再開までの間、赤ちゃんと保護者が一緒に絵本を楽しめるように、図書館で赤ちゃんを対象にした絵本の読み聞かせも行う。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	電子図書館事業	担当課名	生涯学習課 (図書館)
係名	新庄図書館・當麻図書館	施設名	葛城市立図書館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	感染症や災害等の発生に影響されることのない市民の読書環境を維持するとともに、地域的、身体的に図書館への来館が困難な市民が自由に情報にアクセスできる環境を構築し、全ての葛城市民に読書の機会を提供する。			
事業の内容	パソコン・スマートフォン・タブレット等を用いて、場所・時間を選ばずに市民が読書を楽しむことができるよう、令和2年に電子図書館を導入した。 市内の小中学校の児童・生徒にタブレット端末が配付されているため、子ども達が電子図書館を利用することができるよう、IDとパスワードを配付するとともに、令和4年度は新たに281冊のコンテンツを冊購入し、電子書籍の充実を図った。			
事業対象	市民(子どもから大人)			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		1,186	1,660
内一般財源			0	0	1,660	
内国・県補助金			1,186	1,660	0	
内受益者負担			0	0	0	
人件費 ②			989	1,551	1,551	
総コスト①+②			989	1,551	3,211	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	コンテンツ購入	千円	528	1,000	1,000
		コンテンツ購入冊数	冊	206	281	300
	事業成果	貸出回数	回	12,543	7,830	10,000
		ログイン回数	回	21,582	8,907	13,000
		閲覧回数	回	26,200	14,146	18,000
		予約回数	回	4,144	1,378	3,000

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度はコンテンツ購入費として100万円の予算を確保し、コンテンツの充実に努めた。令和4年度で一番利用が多かった世代は小学生で、利用者全体の80%を占めた。次に多い世代は中学生であった。市内の小学校と中学校の児童生徒全員には、電子図書館を利用するためのIDとパスワードを付与し、電子図書館の利用の促進に努めている。			
事業の課題・問題点	令和5年3月末で使用期限が切れたコンテンツが多数あり、コンテンツの所蔵数が伸び悩んでいる状況である。小学生や中学生の利用が多いため、子ども達の読書や学習に役立つコンテンツの導入に努めたい。また、大人の利用が少ないため、広報やホームページ等で電子図書館の周知に力を入れたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コロナ禍で外出が自粛されたことが影響し、電子図書館の利用が広がったが、コロナ感染が落ち着いてきたため、図書館へ来館し紙の本を利用する人が増えている。 これからは利用者の都合に合わせて電子書籍と紙の本を自由に選択できる環境を作るためにも、コンテンツの充実に努める。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	この事業は3年目にはなるが、まだ多くの市民に普及していない。今後、この「かつらぎし電子図書館」を幅広い年代の市民に啓発していく必要がある、本年度も、読書環境維持に向け、コンテンツを増冊し電子書籍の充実を図られ、評価できる。 これからの図書館の形として、時間や距離の制限を取り払い、身体的な条件によって図書館の利用が困難な市民にも平等に機会提供できるデジタル化は、時流に即していると考えます。ただし、現状は未だ完璧なシステムに成りきっておらず、今後の発展に期待します。またデジタルを経験して紙媒体の有り難みに気づくということもあります。デジタル利用と図書館来館の相乗効果も期待したいところです。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	小学生と中学生には広く認知され利用されているが、その他の年代の利用は少なく、電子図書館のメリットが活かされていない。図書館の利用者の中には、電子書籍より紙の本を好まれる方もいるため、利用する資料により「紙」と「電子」の使い分けができるよう、さらにコンテンツの充実を図りたい。 また、毎月新しく入ったコンテンツを紹介する目録を作り、図書館の利用者や学校図書館へ配り、電子図書館の利用の促進に努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	二十歳の集い式典事業	担当課名	生涯学習課
係名	生涯学習係	施設名	

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	二十歳を迎えた青年が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとすることを祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。			
事業の内容	令和4年4月1日から、成年年齢が十八歳に引き下げられたことに伴い、式典の名称を「成人式」から「二十歳の集い」へと改めた。 当該年度中に二十歳の誕生日を迎える方から実行委員会メンバーを募集し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策を十分行ったうえで、本事業を実施した。新庄北幼稚園園児による太鼓演奏、當麻小学校金管クラブによる演奏が開催に花を添え、かわいらしい演奏者の頑張りに二十歳を迎えた参加者も暖かい拍手を送っていた。			
事業対象	当該年度に二十歳を迎える者及びその関係者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①	946	998	1,000	
		内一般財源	946	998	1,000	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	2,849	5,012	5,012	
		総コスト①+②	3,795	6,010	6,012	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	決算額	千円	946	998	1,000
		スタッフ会議	回	1	7	8
	事業成果	参加者数	人	273	325	300
		対象者人数	人	389	439	400

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	前年度に比較しコストが増大している理由としては、前年は課長補佐が一人で担当していたところを、令和4年度は主担当者と課長補佐の2名が担当したことによる。新型コロナウイルスの状況が不透明な中準備を進めたが、当日の対策を十分行いながら大きなトラブルもなく開催できた。実行委員会会議も対策を取りながら対面やりリモートでの参加があり、ラインも使いながら打ち合わせを行った。			
事業の課題・問題点	令和3年度、令和4年度はコロナ禍の影響から二部制での開催を余儀なくされたが、令和5年度(令和6年1月開催)は一部制での開催を目指したい。これにより青年の中に「みんな揃って葛城市の一員」という意識をもたせたいと考える。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	前年度に引き続き、地区別に分け二部制で開催した。実行委員会会議もコロナ対策を取りながら以前に近い回数開催でき、恩師からのビデオレターや思い出の地巡り、恩師のご招待など実行委員会メンバーの活躍もあり参加者にとって楽しめる内容であったと考えている。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	本年度も、新型コロナウイルスの影響により、當麻地区・新庄地区に分けて二部制及び式典のみの開催になったことは残念であるが、スタッフ会議で検討した結果、式典後のセレモニーが思い出に残るものになり、楽しい集いができたことは十分評価できる。今後、一部制になっても、この事業の目的達成に向け、会議を十分にとり参加してよかったと思えるような企画・運営に取り組んでください。 対象者の約7割という高い参加率を実現できている事業です。実行委員が同じ世代で構成されているので、自主性が育まれているとともに、参加者の気持ちに寄り添った企画を立案できていると思います。ただし、新庄、白鳳中学校卒業生以外の参加者への配慮が必要です。
-----------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	実行委員会メンバーには月1回の会議への参加を依頼していますが、コロナ禍が過ぎ多忙な毎日の中、困難な状況でもあります。会議の開催方法に柔軟性を与え、より多くの意見交換の機会を持つ必要があります。 市内在住で葛城市立中学出身でない対象者の参加については、ご本人が希望する自治体での同様のイベント参加が考えられます。現状としては小学校が同じ、家が近所などの同級生と参加されているようです。先生からのメッセージ等は市立小中学校の恩師からのものでありますので、それ以外に楽しめる企画を行えるよう実行委員会でご検討していただくようにいたします。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係名	生涯学習係	施設名	

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。			
事業の内容	<p>市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。</p> <p>①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載、駅・学校等での横断幕設置) ※駅前での啓発活動(啓発物品の配付)は、実施せず。</p> <p>②非行防止と環境浄化運動の推進(遊戯施設の巡視活動) ※各種イベントでの巡視活動は、イベントの中止に伴い、実施せず。</p> <p>③青少年の健全育成に関する強調月間(7・8・11月)における、青色防犯パトロールカーによる市内巡回の実施。</p> <p>④市内各小学校及び小学校PTAと連携し、危険箇所への「キケン旗」の設置及び、通学路における特に見通しの悪い交差点を中心に、危険箇所への一旦停止を促す「足形マークシール」の設置。 ※各種イベントでの巡視活動は、イベントの中止に伴い、実施せず。</p>			
事業対象	市内青少年			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算
		直接事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	309	400
		内国・県補助金		0	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		1,798	1,828	1,828
		総コスト①+②		2,198	2,137	2,228
実績と成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	会議	回	6	6	6
		研修会	回	0	0	7
		巡視活動	回	1	19	20
		街頭啓発	回	0	0	2
	事業成果	会議	人	36	40	42
		研修会	人	0	0	9
		巡視活動	人	0	45	60
街頭啓発		人	0	0	100	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	「啓発物品を手渡しする」というスタイルであるため、令和3年度と同様に街頭啓発を行うことができなかった。街頭掲示による啓発活動は、メッセージ性の高さ取り扱いの容易さから好評を得た「横断幕」を使用することにより補っている。場所によっては、横断幕の設置に適さない箇所もあるため、のぼり旗も併用する。 啓発活動の代替として、新たに青パトによる市内巡回を行った。			
事業の課題・問題点	コロナ禍によって「多くの人と会って交流する機会」が損なわれ、青少年の孤立化が進んでいるように感じる。人と会うことができない代わりに、SNSなどの「相手の顔が見えない交流」の機会は増加していると考えられ、それらが新しい社会問題となっているが、これに対しての有効な手段は、未だ模索中である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	葛城市子ども・若者地域支援協議会、生活安全推進協議会などの関係諸機関との連携が図れておらず、積極的な情報交換が必要であると考えます。また、青少年の健全な育成を阻害する要因が、従来から変化している社会に対して新たな支援方法を検討する必要があります。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	青少年健全育成協議会を通して得た情報等を5団体だけでなく地域のいろんな団体やグループとの連携を図り、地域を巻き込んだ活動にしていくことが重要である。また、青少年を取り巻く環境の変化に対応できるように情報を収集し、その情報を幅広い年代に、発信・啓発していく方法も検討する必要があります。 主に十代の青少年を対象に、教育機関・PTA・行政・警察が情報交換をし、啓発活動を実施しています。青少年を取り巻く環境はSNSやWEB環境の浸透もあり、市という枠組みをも簡単に飛び越えて網の目のように広がっています。青少年本人の意識に働きかけるとともに、最も身近な存在である保護者にどのような訴えかけが出来るかが非常に重要だと考えます。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	これまでの取組に加え、令和4年度より青パトによる市内巡回啓発を行い、市民の皆様への啓発を強化してきたが、引き続き同じ活動を行う。 また、令和5年度より健全育成協議会会員やPTA等を対象に、ネット関係の問題を中心に研修会を予定している。すでに、令和5年6月の総会において第1回の研修会(「スマホ問題を考える!」高田警察署スクールサポーター)を開催した。第2回を10~11月に予定している。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係名	生涯学習係	施設名	

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。			
事業の内容	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネーターを配置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動、授業支援等を中心に支援を行っている。			
事業対象	市民及び市内小中学校教員			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		2,918	2,978	3,000
		内一般財源	1,401	1,800	1,000	
		内国・県補助金	1,517	1,178	2,000	
		内受益者負担	0			
		人件費 ②	2,088	2,105	2,105	
		総コスト①+②	5,006	5,083	5,105	
実績と成果	事業実績	区分	単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
		運営委員会に係る経費	千円	364	450	561
	教育支援活動に係る経費	千円	2,554	2,528	2,439	
	事業成果					

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度はまだコロナ禍の中にありながら収束に向かいつつあるという状況であったため、学習支援については従来の調理実習やミシン実習への支援を行う機会も戻りつつあるという状況であった。校舎の外での活動は、各学校との連絡調整のもとに実施し、地域の方々の協力を得て活動することができた。子どもたちにも、先生方にも、参加したボランティアにも良い結果を生む事業として周知を広げたい。			
事業の課題・問題点	ボランティアの増員が急務である。PTA総会などボランティア募集の良い機会であったイベントがなくなり、新規ボランティアの参加がほとんどない。ボランティアの総数が少ないが故に、ボランティア一人ひとりにかかる負担が増加し、負担の多さを理由にボランティア参加を躊躇し、結果ボランティアが増えない、という状況が続いていると考える。ある学校では、ボランティアの申し込み書類の様式を一部変更することで増員の結果を得ていることから、これを他校にも広げたいと考えている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コーディネーター間の連携は良く取れており、情報共有や助言、助力に加えて、当事業をより良い取組とするために、様々な話し合いを行うようになり、益々充実している。長くコーディネーターを務めた方が一人、令和4年度末で新しい方に換わることになった。上手く後任育成ができた結果と考えるが、他のコーディネーターも高齢化しており、後任と長期にわたり従事していただくボランティアの育成は引き続き必要である。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	毎年の課題であるコーディネーター及びボランティアの発掘及び育成ができていないのが現状である。この課題解決に向け、各地域のボランティアの募集情報やボランティアの状況を把握し、各地区と連携をとり情報交換をするとともに、支援していく必要がある。また、いろんな団体・グループ・サークル等に働きかけ、ボランティアの発掘・育成に取り組んで欲しい。 今、教員不足と教員の労働環境改善が学校現場での課題となっています。家庭科や習字、理科実験や体育、遠足といった体験授業や、校内美化・クラブ・委員会活動・登下校の見守りなど、教員だけでは目が届かず人手が必要な部分に外部人材を導入することは理に適っています。ただしボランティア活動はあくまで参加者の善意を礎にするものです。学校と参加者がWin-Winの関係を構築できるよう行政の支援が必要です。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	学校ボランティアの発掘と育成は長年の課題である。今後、各校の学校運営協議会との協働・連携が必要となる可能性があることから、ボランティアの多様性も求められるようになる。 ボランティアのハードルを高く感じさせずに、できる時間にできることをすることで子どもたちの学びの手助けになれるやりがいを周知したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会事業	担当課名	生涯学習課
係名	生涯学習係	施設名	

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。			
事業の内容	①令和4年度モデル分館として指定を受けた染野分館及び新在家分館による生涯学習活動発表 ②市内小中学校児童・生徒による、学校での体験学習や生活発表をテーマとした作文の朗読 ③菊花展表彰式 ④葛城市民歌壇表彰式  令和5年2月19日に上記の内容にて葛城市生涯学習まちづくり推進大会を開催。令和4年度で分館モデル生涯学習活動発表が全分館を一巡する。			
事業対象	市民			
事業年度	<input type="checkbox"/>	区分指定無	<input checked="" type="checkbox"/>	H1 年度 ~ R4 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		750	500	0
		内一般財源	750	500		
		内国・県補助金	0	0		
		内受益者負担	0	0		
		人件費 ②	1,740	1,754	0	
		総コスト①+②	2,490	2,254	0	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	参加人数	人	中止	364	
	事業成果					

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度のまちづくり推進大会は無事開催でき、大会の中核を成す指定分館2館による各地域における伝統文化や催事の取組等の紹介が行われ、生涯学習活動を通じて地域住民の交流を図る良い機会となっていた。奈良文化幼稚園の園児による太鼓演奏、市内小中学校児童・生徒による作文の朗読、文化団体の表彰及び葛城市民歌壇表彰など、貴重な体験発表の機会となった。			
事業の課題・問題点	令和4年度の2つの地区の発表により、分館モデル生涯学習活動発表が全分館一巡した。「分館モデル発表」のスタイルは分館の負担が大きかったことから、このスタイルは今回で終えることとする。今後は、時代とともに求められる方が変化する地域コミュニティ活動を支え活力を与えながら、生涯に渡る学びの提供につなげる方法を考える必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コミュニティ活動の醸成に寄与している当事業であるが、反面、事業を実施する地区、特に地区役員にとっては、負担の大きい事業でもある。 今後の事業を検討するにあたり、この点には配慮が必要ではないかと考える。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	本年度2地区のモデル分館の発表があり全分館一巡し、この事業の中核であった分館の発表が終わった。公民館は、地域住民の交流の場である。このことを踏まえ、今後この事業をどうしていくのか、今までの活動内容を再検討し方向性を見出す必要がある。 地区館の発表が一巡し、大きな節目となりました。事業改変のチャンスでもあります。懸念事項としては本事業の廃止やコロナを機に多くの事業が中止廃止される中で、芸術文化・生涯学習の発表の場が喪失してしまうのではないかとこの点です。市が管理する施設や協力事業者を活用し、気軽に自由に市民が参加でき市民の生涯学習活動を活性化させる施策が必要ではないでしょうか。
-----------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	令和4年度で本事業は終了し、令和5年度からは、時代とともに求められる方が変化する「地域コミュニティ」の活動を、どのように支え推進していくかを考える必要があると認識しています。 人のつながりが希薄になりつつあるといわれる半面、多様なつながりによる持続可能な地域社会の形成の必要性も説かれる昨今、生涯学習がどのような役割を担うべきかを検討していきます。また、令和5年度に新規に「芸術・文化振興事業」を実施します。この事業が気軽に市民が参加できる生涯学習活動となるよう事業内容を検討し進めてまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	生涯学習課 (中央公民館)
係名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。			
事業の内容	葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および各種団体をはじめとする約20団体の協賛により屋敷山公園一帯で模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、募金活動、献血、ニュースポーツなどを同時に行う。 令和2年度から令和4年度までは、新型コロナウイルス感染症対策のため開催を中止。令和5年度は4年ぶりに開催を行う。			
事業対象	市内地域対象住民			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		0	0
内一般財源			0	0	1,600	
内国・県補助金			0	0	0	
内受益者負担			0	0	0	
人件費 ②			0	0	0	
総コスト①+②			0	0	1,600	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	決算額	千円	0	0	1,600
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	0	0	1
	事業成果	参加人数	人	0	0	10,000
		協賛団体	団体	0	0	20

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献していない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input checked="" type="checkbox"/> できていない
総合評価	<p>A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている</p> <p>B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている</p> <p>C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い</p> <p>D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要</p>			
評価の説明	<p>例年5月の開催に向け1月から会議を重ねているところだが、新型コロナウイルスの感染状況を見定めることは非常に困難であったため、開催できるギリギリまで開催か中止かの決定を待ち、令和4年2月の会議で令和4年度の中止が決定した。</p>			
事業の課題・問題点	<p>昭和50年から45年以上続いている伝統ある事業であるが、毎年の開催であるため、文化活動の発表の場を確保しながら集客できるイベント内容にする工夫が必要。</p> <p>また、協賛願っている各種団体の方々には、公園まつりの他の催し物等にも参加して楽しいひと時を過ごしていただけるよう、運営体制を改善していかなければならない。</p>			

評価を受けての改善点(過去3年間)	<p>会議の回数を増やし、出店場所変更等の協議をして工夫する事により、来場者の人の流れをかえるとともに、マナー化を改善し、会場全体で楽しんでもらえるようにした。</p> <p>実行委員会が中心となり、関係団体がより良くする工夫をしている。</p>
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	<p>本年度も、新型コロナウイルスの影響で中止になった。今後、葛城市公園まつり実行委員会が中心となって今までの問題点を十分検討し、市民が気軽に参加し楽しめるような公園祭りに取り組んでください。</p> <p>令和3年度4年度とコロナ禍によって中止の判断が成されたが、状況を考えれば妥当な判断だと考えます。事業開始からまもなく半世紀を迎えるにあたり、時代に即した事業が行えるよう、開かれた議論が必要です。</p>
-----------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	<p>事前の会議については例年1月に企画運営委員会、3月に実行委員会を開催しているが、開催後の実施報告の機会を作っていないので、今後はそれも検討し内容の充実を図りたい。</p> <p>令和5年度は無事終了したが、コロナ対策に加え、ゴミの持ち帰りに協力いただいたが大きなトラブルはなかった。今後も時代に即した内容に更新しつつ続けていきたい。</p>	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	生涯学習課 (中央公民館・當麻文化会館)
係名	中央公民館係	施設名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。			
事業の内容	<p>『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。</p> <p>1. 中央公民館実施分 6教室 成人 3：きもの着付け、茶道、書道 子ども2：絵画、茶道 16講座 成人11：ガーデニング、匠のイタリアン、中国語等 子ども4：親子クッキング(土・日)、親子お菓子・パンづくり(土・日)</p> <p>2. 當麻文化会館実施分 11講座 成人11：絵画、男の食卓等(6)、1日講座(1)、 タブレット講座(4)</p> <p>受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。</p>			
事業対象	市内在住者・在勤者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		2,173	3,036	3,803
		内一般財源	2,173	3,036	3,803	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	7,709	4,036	4,036	
		総コスト①+②	9,882	7,072	7,839	
実績と 成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業 実績	中央公民館	謝金	1,315	2,066	2,653
		當麻文化会館	謝金	858	970	1,150
		合計	謝金	2,173	3,036	3,803
	事業 成果	中央公民館	受講者 数	1,317	1,807	2,804
		當麻文化会館	受講者 数	659	856	1,358
合計		受講者 数	1,976	2,663	4,162	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度は、令和2年度及び令和3年度の新型コロナウイルス感染症防止のため、開催時期を遅らせたり、中止をしなければならないような事はなく、以前のように通常な形で開催が行えた。一部料理関係の講座は持ち帰り等の処置を行ったが、ほぼ予定通りに実施が出来た。			
事業の課題・問題点	教室・講座実施開催にあたり、閉講または中止が散見されるようになった。その理由として、 ①講師、応募者の高齢化(健康面)および応募者数の減少。 ②受講料が無料(教材費等は受講者負担)のため安易に捉えられる向きがあり、同じ教室や講座を毎年受講される方が多く見受けられる。今後、同事業に興味を持ってもらえるような新たな内容も検討し応募者増に努めたい。そして講座を数年にわたり受講されている人や毎年ほぼ同じ受講者のみで運営されている講座については、既存クラブへの入部や新規クラブの設立を進めていきたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	令和2年度及び令和3年度の新型コロナウイルス感染症防止のため開催中止や回数を少なくしての実施で受講者にも不満足な状態であったので、令和4年度はウイズコロナを目標に感染対策を万全にして開催を行った。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	本年度は、ウイズコロナを目標に感染対策を万全にして通常通り教室・講座が実施されたことは評価できる。しかし、応募者の減少や同じ教室や講座の毎年同じ人の受講等の課題が見えてきた。今後これらの課題の解消に向け、幅広く市民の学習ニーズを的確に把握し、今までにない新しい教室・講座の検討をお願いしたい。 生涯学習の入口を受講料無料で提供する。これが本事業の指針です。単なる市民サービスにならないよう仕組み作りを体系化しなければいけません。受講上限回数の明示や、無料講座の次段階として同種の有料講座を設けるなど改善が求められます。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	講師からの申し出により取りやめたものや毎年同じ人の受講という課題がある。今後は市主催の教室・講座を発端とした更なる研鑽の促進と、新たな仲間作りのための自主クラブへの移行のサポートを行う。教室・講座の内容について比較出来るような実績表を作成する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	生涯学習課 (當麻文化会館)
係名	地区館係	施設名	5地区館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。			
事業の内容	<p>生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味や興味を同じくする人びとが身近な地区館に集い、学習する活動を支援するとともに交流を深める機会を提供する。</p> <p>足田、忍海、北花内、磐城、當麻の5地区館で絵画等7教室、俳句の1講座を開講し、教室は8回～10回の実施、講座は6回実施で開講している。</p> <p>令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症対策を実施して開講した。</p> <p>受講生の募集は、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知している。</p>			
事業対象	市内 在住・在勤者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度～年度間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①	526	636	786	
		内一般財源	526	636	786	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	1,392	1,207	1,207	
		総コスト①+②	1,918	1,843	1,993	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	各種教室・講座	総回数	61	74	90
	事業成果	参加人数	人	168	119	164

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	身近な地区館・分館において生涯学習教室・講座を開催することで気軽に参加受講でき学習意欲の向上と生涯学習の発展に役割を果たしていると考えます。 料理・クラフトバンドの2教室で講座開始後、及び終了前のそれぞれ15分～20分間程、また、書道教室については終了までスタッフが同席し講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズの把握に積極的に努めてきた。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果があがっている。			
事業の課題・問題点	毎年継続して受講しておられる方が多数あり、教室・講座での学びを楽しみにされている。同時に学び仲間ができ、その方たちとのふれあいも楽しみにされている。しかし、平成15年頃から始まった地区館教室・講座であり、約15年以上経過しているが、なかには受講生の顔ぶれが変化していない教室・講座もある。そこで、そのような教室・講座をｸﾗﾌﾞ化して、自ら運営して頂く方向にしていかなければならない時期にきていると思う。それが本来の生涯学習ではないかと考える。 また、新講座・教室開設や実施回数増加等の要望もあるが、受講者数が見込めるのか、予算と場所の関係などもあり、引き続き検討課題事項である。 定員をオーバーした教室・講座もあるが、いずれも僅数であり、講師の好意と受講者の理解により実施することができた。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	地域において趣味を同じくする人々が交流を深め、活動の輪を広げるためにも、住民が気軽に参加でき、学習意欲の向上と生涯学習の進展に寄与していくための身近な公民館活動になるよう、地域の実情を踏まえた各地区館での教室・講座の開催に向けて取り組んだ。また、受講生の方々には、地区館でのｸﾗﾌﾞ化を図り、自ら運営して頂く取り組みを推進した。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	各地区館によって、教室・講座の偏りがみられ参加者も減少し、同じ人の毎年の受講が見られる。今後、サークル化やｸﾗﾌﾞ化への移行を検討していることは評価できる。そのためにも、気軽に使用できるような地区館の環境の整備等に取り組んでいただきたい。 2つの中央公民館が実施している教室・講座事業の地区館バージョンです。各地区に設置され地域コミュニティにより近い地区館での事業は、生涯学習の面とは別に地域コミュニティの活性化という目的も主軸に据えなければいけません。「参加者の固定」「ｸﾗﾌﾞ化」という言葉が課題に挙がっていますが、ｸﾗﾌﾞ運営が実際に可能かという疑問と、コミュニティ面から見て例えば「高齢者の方が毎回同じ講座に顔を出してくれていて安否が確認できるし、健康維持に繋がっている」ということがあったときに、改悪になるのではないかと心配します。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市民の身近にある公民館において、より多くの方に学びの機会を提供し、地区館を趣味を同じくする仲間同士のふれあい、地域交流の基点とするべく取り組んでいるが、地区館によっては参加者の減少や教室・講座に偏りがある。このような状況を踏まえ、各地域の学習ニーズを的確に把握し、教室・講座の偏り等の見直しを図り、住民が気軽に参加でき活動の輪を広げられるよう努める。 また、高齢者の参加が多いこともあり、地域コミュニティの活性化、地域住民同士の繋がりという面に重点を置き、教室・講座を運営する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	文化振興事業	担当課名	生涯学習課 (文化会館)
係名	総務係・文化会館係	施設名	文化会館

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。			
事業の内容	魅力ある文化芸術鑑賞事業・市民参加型事業を継続的に展開することにより、良質な芸術・文化に触れる“きっかけ”や自ら参加する喜びを体感する機会を市民に提供し、地域の文化力向上に寄与することを目的として、無料及び有料のコンサートや演劇公演等の機会を提供する。			
事業対象	市民及び近隣市町村の住民			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		2,200	10,468
内一般財源			2,200	8,753	8,071	
内国・県補助金			0	0	0	
内受益者負担			0	1,715	2,850	
人件費 ②			7,059	4,954	4,954	
総コスト①+②			9,259	15,422	15,875	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	自主事業入場料	千円	0	1,656	2,750
		自主事業委託料等	千円	1,298	8,753	7,517
	事業成果	自主事業入場数	人	469	2,179	2,500
		自主事業(有料)開催数	本	0	2	2
		自主事業(無料)開催数	本	3	5	5

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	C	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	コロナ禍の影響により、開催を休止していた有料の公演(講演会・クラシックコンサート)を開催する事が出来た。市民劇団の公演においても、有観客・人数制限をしない方法にて開催。 いくつかの公演に関しては、感染症拡大防止の為これまでの経験を活かし、座席制限・入場整理券の発行等、来場者に安心して楽しい時間を過ごして頂けるよう工夫しての開催となったが、市民に芸術鑑賞の機会を提供する事ができた。			
事業の課題・問題点	有料公演をはじめとする自主事業の再開に伴い、併せてチケット販売等の事務も再開する形となったが、コロナ禍前に行っていた有料公演を経験している職員が殆ど居らず、ノウハウが確立されていない状態での業務となった。限られた職員によるワンマンでの実施とならないよう人員を確保・ノウハウを共有し、安定して実施出来るようにする必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コロナ禍の影響により休止が続いていた事で自主事業の採算がとれない年が続いていたが、再開する事が出来た今年度から、従来の水準にまで戻していく必要がある。広報、LINE、TwitterやWeb予約サービスの展開等で、より手軽に文化会館事業を知り、触れて頂ける機会を増やすことが出来るようになったので、イベント情報や友の会の募集等で一層の周知・集客に努めたい。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	感染症拡大防止の対策をとり、芸術鑑賞の機会を提供できたのはよかった。また、イベント内容を検討した結果、友の会の参加者が増えたのは評価できる。イベントや講演内容によって、市民の参加が大きく変わってくる。そのためにも、市民のニーズを的確に把握し、安定した集客の確保に向けて実施するイベント・講演内容を検討する必要がある。 必要なコロナ対策を施し、事業が実施されています。今後はコロナ以前の状態への早期復帰がまず課題となります。「経験職員の不足」「ノウハウの確立」という課題が挙がっていますが、民間ではあり得ないことです。職員の移動があることは仕方ないことですが、引き継ぎ等は着実に実施していただきたい。
-----------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	安定した集客数の確保に向けて「友の会」の会員特典をより充実させられるよう検討し、引き続き会員の増員に取り組む必要がある。また、市民ニーズの把握のための情報収集やアンケートの手法を工夫し、魅力ある文化芸術鑑賞を企画し実施していきたい。 啓発活動の面では、従来の紙媒体における広報も大切しつつ、LINE、TwitterやWeb予約サービスの展開等も積極的に利用し、幅広い年代の方に興味を持ってもらえるよう努めたい。 チケット販売等の業務については、業務のマニュアル化を推進し、職員の異動があっても支障のないように対応する。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	生涯学習課 （歴史博物館）
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

（計 画）

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	近年、市民の地域の歴史・文化に対する関心が薄くなってきており、また知る機会も少ない状況にあることから、合併により生まれた葛城市の歴史や伝統文化を伝えていく必要がある。この葛城地域の歴史文化を特別展や常設展などの展示会を通してわかりやすく解説・紹介し、市民の愛郷心を育てていくことを目標としている。			
事業の内容	地域の多様な歴史文化を知っていただくために、関連資料を集めた展示会（年間企画展3回・特別展1回）を開催する。また、展示内容を深く理解するための展示解説図録を発行する。			
事業対象	市民等来館者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

（実施内容）

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		2,504	2,526	3,481
		内一般財源	1,653	1,522	2,250	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	851	1,004	1,231	
		人件費 ②	4,665	8,452	8,819	
		総コスト①+②	7,169	10,978	12,300	
実績と 成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業 実績	入館料	円	255,730	330,900	441,000
		図録売上	円	595,430	673,100	780,000
	事業 成果	入館者数	人	2,625	4,228	2,580
		(開催中入館者)	人	(春517+秋1,277)	春801+夏548+秋1,420+冬552	
図録売上		冊	1,574	1,677	1,560	

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少	
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)				
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない	
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)				
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない	
総合評価	<b>B</b>				
	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要				
評価の説明	学芸員2名が新規採用(うち1名は生涯学習課本課と兼務)されたことから、平成28年度以来、年4回の展覧会を開催することができた。 さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大に一定の歯止めが見られたこともあり、入館者数も平成30年度の実績まで回復を見せた。 春季企画展・特別展は、前年度実績を上回り、各テーマ(春:二上山麓の交通路を辿る、特別展:古墳時代の葛城に馬がいた)が人びとの耳目を集めたことが確認できる。 春の企画展は、前年度好評を得た展示テーマを引き継ぐものであり、「歴史と交通路」という本市ならではの視点が、興味をもたれていることが確認できた。特別展は、わかりやすいタイトル・展示物であったことなどからか、小学生が何度も訪れる姿が見られた。幅広い年齢層を呼び込み、事業目的の達成に資することとなった。				
事業の課題・問題点	令和4年度より、学芸員2名が新規採用された。1名は夏季企画展を担当し、作業を進めるなかで学芸員としての業務内容を把握できたと考える。1名は変則的な勤務態勢であった都合上、学芸員としての教育・育成が十分なものとなりえなかった。人材を有効に活用するため、またより豊かな展示を実施するためにも、引き続き人材の育成・教育にあたる必要がある。				

評価を受けての改善点(過去3年間)	常設展示室の展示内容について、令和4年度は特に新庄地域への偏りがみられた中・近世の分野で、展示内容刷新のための作業を行った。展示資料の制約より、完全にバランスがとれたものとはいかないものの、共通する特色をしぼることで、ある程度の改善ができたと考えられる。 一方で、大規模な展示改修を行わない限り、部分的な手当にとどまることは否めない。財源等を考えながら、本格的な常設展示室の展示替え事業について研究したい。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	本年度、コロナ防止対策を行い、今まで以上の実績が納められたことは評価できる。その結果の一つとして、本年度より新規採用された学芸員2名を適材適所の配置を行った結果でもある。これからも、学芸員の育成・教育に力を注ぎ、幅広い展示事業につなげて欲しい。 令和4年度の小規模展示改修のおかげで、少しバランスが取れてきましたが未だに新庄町時代の名残が残っています。この際なので少し予算をかけて、葛城市だけではなく広域の葛城地域の歴史を伝える博物館へバージョンアップすることで、最寄り駅からのアクセスも良いので市外県外から学生を招き入れる学びの場として活用を促すことができます。
-----------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する <input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	展示会は、歴史博物館の主要事業である。各学芸員の専門をいかし、展示内容・テーマ設定に多様性をもたせながら、事業を継続していきたい。 また、継続的な課題である常設展示内容の改修については、市の歴史紹介を中心としつつ、ご提案いただいた葛城地域を視野に入れた展示の構築・改修のための研究をおこなっていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	生涯学習課 (歴史博物館)
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。			
事業の内容	市民の愛郷心を育むことを目標に、歴史文化講座「葛城学へのいざない」を、月1回を原則として開催する。葛城地域の歴史文化や、その周辺の歴史について、新しい成果をふまえながら、本講座でわかりやすく紹介し、地域の歴史文化への理解を更に深めていただく機会としたい。 また、夏季には高学年児童を対象に、親子で参加する体験型の親子歴史講座を開催する。			
事業対象	市民等来館者			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		100	100	130
		内一般財源	100	100	130	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	3,290	4,405	4,481	
		総コスト①+②	3,390	4,505	4,611	
実績と 成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業 実績	講師	人	4	6	7
		講師報償費	円	100,000	100,000	130,000
	事業 成果	参加者数	人	652	1,397	1,500

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度は、16回の講座を実施した。うち7回(～R4.10.11)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、定員90名という制限を設けて行った。 主な経費である講師謝金については、16回中9回を当館職員が務めることで、経費の削減に努めている。なお、9回中2回は新規採用学芸員が担当し、各自の専門を活かした講座となった。多様性をみせることができ、好評であった。			
事業の課題・問題点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための定員解除後も、講座参加者が制限開始以前の水準に戻っていない。講座回数を増やして認知度を上げる方策を採りながら、より広く市民の参加を促すような講座内容を模索する必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	評価いただいた「手軽に参加できる仕組みづくり」、「講演会頻度の増加」、「多様なテーマ」の3点を、さらに拡充する方向で実施に取り組んでいる。 本年度は市のLINEを利用して、講座に関する広報を開始した。現在は、講座参加者等に対し、より能動的な広報ができないか、方法を研究中である。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	新規採用学芸員の担当講座も取り入れ講座内容が多様化したこと、また毎年この事業の課題克服に向け、検討し実施されており十分評価できる。これからも関係機関と情報交換及び啓発に力を入れて、市民の興味・関心を高めるような講座を実施してください。 コロナ禍中であっても、多くの参加動員を誇った歴史博物館を代表する事業です。毎回内容を工夫し目新しさを失わない努力と、低予算の中で年16回という頻度での開催されていることに敬意を表します。付随施設であるホールの有効活用にも繋がっているため、一石二鳥の事業ともいえます。広報や集客にも工夫がみられるので、新しい葛城ファンの創出を期待します。
-----------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	引き続き、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座の開催と、市民のニーズにこたえる講座となるよう研究に努めたい。いただき評価内容が後退することのないよう、学芸員が知恵を持ち寄って事業実施にあたりたい。 コロナ禍で得た事業運営上の経験はあるが、そのことに固執せずに、常に新たな目で事業改善点を模索していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	生涯学習課 (歴史博物館)
係 名	歴史博物館	施設名	歴史博物館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。			
事業の内容	<p>市内遺跡の範囲確認・保護、記録保存等を目的とした発掘調査を、市教育委員会が主体となって実施する。調査の結果については、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・県へ報告する。あわせて各研究機関・図書館へ配布し、埋蔵文化財の保存・研究・活用のために資する。</p> <p>また、市内の埋蔵文化財包蔵地内で開発工事が行われる場合は、県指示事項に従い発掘調査や立会等を実施する。発掘調査の結果は、終了報告書を作成し、県担当課へ提出する。</p>			
事業対象	一般事業者・市民			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		2,094	2,006	2,000
		内一般財源	594	506	500	
		内国・県補助金	1,500	1,500	1,500	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	4,143	5,278	5,276	
		総コスト①+②	6,237	7,284	7,276	
実績と 成果	区 分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	7	5	10
		立会等	件	2	10	10
		届出(通知)	件	78	67	80
	事業 成果	調査地	場所	新村・柳原遺跡	新村・柳原遺跡	笛吹神社古墳

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	埋蔵文化財発掘調査事業については、開発に伴う緊急調査のほか、市内における重要な埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の範囲確認や、その遺跡の性格を把握する目的の調査を、国・県の補助を受けて毎年継続して実施している。 令和4年度は3年度に引き続いて、新町・柳原線道路拡幅事業にともなう埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を実施した。市道路行政と文化財保護行政が、円滑に連携し調査を終えることができた。			
事業の課題・問題点	令和4年度に学芸員が増員されたが、考古学専門ではない。新採学芸員のうち1名は、埋蔵文化財保護行政に携わった経験をもっている。文化財保護行政全般に明るいことは本市の文化財保護行政の力となるものの、発掘調査現場での経験不足は否めない。小規模な調査現場で経験を積み、将来的な担い手となるよう教育・育成に努めていく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、本市のまちづくりにおいては欠くことのできない事業である。 人口増加の傾向は続いており、これにともない様ざまな開発行為が行われている。埋蔵文化財保護の重要性はもちろんのこと、開発が市民に与える影響も考慮し、バランスをとりながら効率的かつ計画的に事業が遂行できるよう努めていきたい。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	これからも、今まで以上に円滑に事業を進めるためにも、新規学芸員の教育・育成に力を入れ埋蔵文化財の保護に取り組んでください。 フランスの地方都市で、ホームセンター建設の為に新石器時代の貴重な遺跡が破壊された、とのセンセーショナルなニュースが世界に報じられました。SNSでの情報提供がニュースの始まりでした。葛城市でそのようなことが無いように、文化財の保護と都市開発の両面で必要な本事業を着実に遂行していただきたい。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、本市のまちづくりにおいては欠くことのできない事業である。円滑に事業を遂行する上でも、引き続き後継者の育成に努めていく。 市内外の関係機関と情報共有などで連携を図り、開発事業に対し適切な指導を行うとともに、効率的かつ計画的に事業が遂行できるよう努めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり		
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進		
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。			
事業の内容	<p>市内在住の小学生を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各種教室を開催する。教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。</p> <p>また、教室の参加者が継続してスポーツをしたい場合は、総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」やスポーツ少年団や体育協会に移行を促すことで、スポーツのきっかけづくりという役割を明確化し、色分けしながら共存と発展を図る。</p>			
事業対象	教室・講座受講者（市内在住の子ども及びその保護者）			
事業年度	■	区分指定無	□	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		事業コスト (単位：千円)	直接事業費 ①		588	714
内一般財源			588	714	868	
内国・県補助金			0	0	0	
内受益者負担			0	0	0	
人件費 ②			2,317	3,029	3,029	
総コスト①+②			2,905	3,743	3,897	
実績と成果	区分	単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)	
		小学生	千円	413	434	588
	事業実績	一般	千円	—		
		親子教室	千円	175	280	280
	事業成果	小学生	人	88	63	100
		一般	人	—		
		親子教室	組	34	29	35

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input checked="" type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input type="checkbox"/> できている	<input checked="" type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	C	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	子どもがスポーツを始める機会や親子で一緒に運動しふれあう機会を提供するという点で非常に重要な事業であり、参加者からは一定の評価を得られている。 令和4年度についてもコロナ禍での開催になり、スポーツ教室全体でも申込者数は減少している。少年剣道教室が募集定員の1/2に満たないため中止となったが、それ以外の教室については、定員には満たないものの開催することができた。			
事業の課題・問題点	令和2年度から今年度までコロナ禍での教室開催であり、全体的に申込者数も減少していたが、開催する教室は感染防止対策を徹底し実施した。 令和5年5月よりコロナウイルス感染症は5類に移行されることで、今までスポーツなどを控えていた方たちが活動を始めることが想定される。今まで以上に市民のスポーツのニーズや、スポーツ教室のアンケートを結果を反映させた教室の運営を行っていきたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	教室の内容については、スポーツクラブ葛城と棲み分けの線引きだけでなく両事業が共存・発展していけるよう協力関係を築き、継続してコミュニケーションをとり事業を進めている。令和5年5月よりコロナウイルス感染症は5類に移行されることで、スポーツを再開する人、スポーツをする機会も増えることを想定し、今まで以上に教室の内容や対象者を考えスポーツを始めるきっかけづくりとなるような教室づくりに努め、事業目的の達成を目指す。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	毎年児童のニーズを的確に把握するために、スポーツ教室参加者にアンケートを実施するだけでなく、関係機関(体育協会・スポーツ少年団等)との情報交換をしていく必要がある。既存の教室だけでなく、新しい教室も検討・実施し、これからもスポーツを始めるきっかけを提供して健康増進を図っていくために取り組んでください。 小学生と保護者に対して生涯スポーツの入口を受講料無料で提供する。これが本事業の指針です。単なる市民サービスにならないよう仕組み作りを体系化しなければいけません。 習得度や年齢、受講回数などに何かの明確な基準を設け、参加者を次の段階へと導く流れの構築と、少子化の中でも充実したバリエーションを維持できるようにする工夫が必要です。
-------	---

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	親子ふれあい体操教室は、対象も未就学児とその保護者であり、まずは身体を動かすことに興味を持っていただくために実施。サッカー、テニス、空手、剣道教室の競技は市スポーツ少年団や市体育協会に登録されているクラブがあり、教室を修了した子ども達で更にそのスポーツを習熟していきたい場合はそのクラブに進んでいただいている。 今後も教室は市民がスポーツを始めるきっかけづくりの場として継続し、内容については教室が修了しても、市スポーツ少年団、市体育協会に繋がりをもち、また健康増進になるよう教室の内容を精査検討し実施するよう努める。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係名	体育振興係	施設名	新庄第1県民運動場他

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり		
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進		
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し、市民の参加を促す。			
事業の内容	<p>市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。</p> <p>市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。</p>			
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）			
事業年度	<input checked="" type="checkbox"/>	区分指定無	<input type="checkbox"/>	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①	1,344	2,994	4,699	
		内一般財源	1,344	2,994	4,699	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	0	0	0	
		人件費 ②	6,376	6,164	6,164	
		総コスト①+②	7,720	9,158	10,863	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	大会事業費	千円	1,344	2,994	4,699
	事業成果	大会参加者数	人	1,002	2,410	8,000

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input type="checkbox"/> 増加	<input checked="" type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分貢献している	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度においては、新型コロナウイルス感染者数も増減を繰り返しつつも少しずつ減ってきており、体育協会が主催する行事は市民体育祭を除き、ほぼすべての行事を実施した。 また、市主催の葛城市民スポーツのつどいを実施し、マラソンランナーの福士加代子さんを招聘し、たくさんの参加者と一緒に盛大に開催することができた。			
事業の課題・問題点	市民体育祭については、各地区より以前から選手集めが大変、地区対抗競技を減らしてほしいなど、さまざまな要望がある。令和4年度も役員でプログラム内容、感染対策など熟考し開催に向けて準備したが、参加表明した地区が7地区だけであり開催を断念した。新型コロナウイルス感染症が5類になったとしても、例年のプログラム内容では参加地区が少ないこともある。上記に記載した市民スポーツのつどいのように地区参加ではなく市民1人でも家族でも個人として参加できるような内容に変更するかを体育協会とも協議し進めていきたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	体育協会主催の体育行事は、旧新庄町、旧當麻町から先人の役員方が毎年試行錯誤を重ね、改良してきたものであり、例年たくさんの市民が参加されてきました。コロナ禍で参加者が減り、また5類に移行されたとしても、急に参加者が増えることも難しく、各体育行事の内容も全体的に見直す時期になったのかもしれませんが。今後は今まで以上に市民が気軽に参加でき、また家族で楽しめるレクリエーション的な内容も含めるよう役員と協議を重ねていきたい。
-------------------	---

( 有 識 者 意 見 )

有 識 者 意 見	これからは、市民が気軽に参加できる競技及び環境づくりが必要である。特に、市民体育祭に於いては、各地区の参加が少なく中止になり、内容等の検討が必要である。この事業は、市民の健康増進に向け必要な事業であり、各種団体等と協議し、市民が安心して気軽に参加できるよう取り組んでください。 市内の各施設を利用し、各種大会を実施しています。室内施設には順次空調設備が導入され、グラウンドではミスト扇風機を導入するなど熱中症対策を施していますが、不測の事態に備え今後は持ち運び式のAEDなど新たな準備が求められるようになって考えます。
-----------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市民体育祭については、4年ぶりの開催となり各地区や市民が注目する行事であり、内容についても、市と体育協会がしっかりと協議していくことが必要である。 各スポーツ大会についても季節に応じて既存の設備、備品を有効に活用し、参加者が安全で安心して、また快適にスポーツできるよう、環境づくりに努める。ご意見のありましたAEDについては、設置されていない施設、または屋外での緊急時に対応できるよう購入もしくはリースを検討していく。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係名	体育振興係	施設名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり		
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進		
事業の目的	体育施設の安全で効率的な管理および運営			
事業の内容	体育館 4ヶ所（當麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場 5ヶ所（當麻健民運動場、新庄第1健民運動場、新庄第2健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート 3ヶ所（當麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール 2ヶ所（新庄、當麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員5名、会計年度任用職員12名で行っている。 施設の老朽化に伴う修繕については、施設管理の方向性を検討し、公共施設のファシリティマネジメントとの整合性を図りながら、計画的な施設の維持修繕を実施する。			
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）			
事業年度	■	区分指定無	□	年度 ~ 年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区分	令和3年度決算	令和4年度決算見込み	令和5年度予算	
		直接事業費 ①		70,311	235,584	63,429
		内一般財源	69,720	234,346	60,429	
		内国・県補助金	0	0	0	
		内受益者負担	591	1,238	3,000	
		人件費 ②	10,199	10,066	10,066	
		総コスト①+②	80,510	245,650	73,495	
実績と成果	区分		単位	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度(目標)
	事業実績	施設管理費	千円	70,311	235,584	63,429
		内修繕、工事費	千円	33,056	193,670	15,320
	事業成果	施設利用者	人	93,114	138,413	150,000

( 評 価 )

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 増加	<input type="checkbox"/> 横ばい	<input type="checkbox"/> 減少	<input type="checkbox"/> かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	<input checked="" type="checkbox"/> 十分貢献している	<input type="checkbox"/> 概ね貢献している	<input type="checkbox"/> あまり貢献していない	<input type="checkbox"/> 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	<input type="checkbox"/> 十分できている	<input checked="" type="checkbox"/> できている	<input type="checkbox"/> あまりできていない	<input type="checkbox"/> できていない
総合評価	<b>B</b>	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要		
評価の説明	令和4年度は新庄スポーツセンターの耐震改修及び屋根改修を実施し、旧耐震基準で建築された市内体育館の耐震工事がすべて完了した。それ以外にも両スポーツセンタープールの一部改修、新町公園の高圧受電盤、排水ポンプ制御盤改修工事等を実施した。			
事業の課題・問題点	体育館の耐震改修工事に伴いトイレの洋式化など水回り設備の改修も行い、利用者からも喜ばれています。今後は、當麻スポーツセンター、いきがい体育館、運動場のトイレなどの水回り設備の改修や夜間照明設備等の改修を進めていく。 改修スケジュールや内容についても、国スポの実施競技やそれに伴う起債や補助を見極めながら進めていく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	各社会体育施設は、受益者負担金の観点から令和4年度において使用料の条例を制定し、議決されました。今後はそれに伴う施行規則や内規の作成、利用者への周知等を進めていきます。
-------------------	--

( 有 識 者 意 見 )

有識者意見	体育施設を安全で快適に利用するためには、日々の点検が必要である。そのためには使用者とのコミュニケーションをとり、破損箇所の早期発見を行い、これからも今まで通り、計画的に管理・運営に取り組んでください。また、計画的に維持管理するためにも今後受益者負担の原則に伴う使用料有料化の検討が必要である。 使用料金の条例が改定され、時代に即した利用条件が導入されました。今後はより適切な運用が行われると思います。有料化により利用者の要望も増加してくると推測されますので、徹底した管理運営が望まれます。令和13年の国体に向けて県内各市町村においてスポーツ施設の整備が行われています。バリアフリー対応や新スポーツへの対応等、時代に即した改修も心がけて下さい。
-------	--

( 方 向 性 )

事業の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止、廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえ継続する	<input type="checkbox"/> 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	スポーツとして体育施設の利用、また災害時に避難所としての利用、どちらにも市民が安全で安心して、また快適に利用できるよう耐震改修工事、トイレの洋式化、スポットクーラーの設置を実施した。一部の施設はトイレの洋式化とバリアフリーが未対応であり、今後は計画的に水回り設備とバリアフリー設備の改修を進めていく。また令和13年度開催の国民スポーツ大会に向けて実施競技の調整、それに伴う施設の改修も進めていく。	

## 7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書(各事業評価シート)について、教育委員会より以下の意見を受けました。

### (1) 各事業に対する意見について

#### 事業 No. 1 葛城市学校施設長寿命化改修事業

校舎の老朽化に伴い、各施設の改修工事が余儀なくされているところですが、今後も、長期に渡る維持管理補修が求められることと思われます。こうした現状の中、児童・生徒に及ぼす環境面や安全性を配慮し、改修工事に努めていただきたいと思えます。

事業継続を継続を希望する中で、授業や安全を最優先し、危険個所の早期発見と報告、対応が必要と考えます。

長寿命化計画を順守しながらも、緊急度を正確に把握し、児童・生徒の安全を第一に未然に事故を防止できるよう改修に着手していただきたい。

#### 事業 No. 2 学校施設各所改修工事

学校生活における子どもたちが安全に安心して通える施設の維持や、各学校における時代に応じた施設の改修や有意義な施設の利用を希望します。

#### 事業 No. 3 JFA こころのプロジェクト「夢の教室」委託事業

長引く新型コロナ感染の影響により対面での授業が実施できなかったことは非常に残念です。子供たちに将来への希望と夢を与え、心の感動を実感できる手段として、今後も、対面式授業を取り入れた継続的な事業の実施を希望します。

とても重要で意義のある取り組みと感じる一方、リモートと対面での子どもたちの意識変化には大きな差があると思えます。できる限り多種にわたる講話を希望します。

性別や障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが夢を持てるよう、様々な分野での企画・運営をお願いしたい。

#### 事業 No. 4 学校情報化推進事業(電子黒板等設置事業)

電子黒板の導入により、教科書とパソコン等との両立をいかに活用出来るかが先生方の課題でもあるものと思われます。授業の内容や理解を深めるためにも、研修を重ね利用度を高めていただくことに期待します。

設備や人員の整備を行う事も必要であるが、子どもや教員に負担にならぬよう、また活用には賛成ですが、直接学力アップにつながる、エビデンスの追跡も必要と考えます。

情報化の推進に伴い、著作権や個人情報の取扱いに一層の注意を払っていただきたい。

#### 事業 No. 5 学校給食事業

学校給食事業については、日々、安全で安心な給食を提供していただいているところですが、近年の物価高騰による影響は避けられないと考えられます。給食費の見直しも検討課題とされていますが、給食内容の質が低下しないように努めていただきたいと思います。又、給食の食べ残しが多いと聞きます。世界では食糧難で苦しんでいる子供たちが沢山いることを知ってもらい、子供たちに食の大切さを伝えるためにも、給食時や、家庭内において指導していただくことを望みます。

本市の給食事業は現在安全で高品質と感じております。問題点にあるように、物価高騰における給食費の見直しが、必要とされる時期に来てる中、行政や学校、保護者の議論が必要になる一方で残食を減らす教育を各校で進めなければなりません。

#### 事業 No. 6 葛城市民歌壇事業

今後の幅広いPR活動の一環に、小学校、中学校等の学習の一部に周知し、学習の流れで募集される事は可能でしょうか。

募集する以前の歌を作ることへの種まきが必要なのではないか、ご検討いただきたい。

#### 事業 No. 7 読書活動支援・講座

講座を行う中で、年金のテーマにあるように、生活に近い講座(マネーリテラシー、マイナンバーカード)など市民の皆様が疑問や不安があるような取り組みも継続が必要だと思えます。

既存の事業内容を精査し、読書や本に特化した事業の推進に努めていただきたい。

#### 事業 No. 8 ブックスタート事業

事業が再開されるまでの間にボランティアの育成とあるが、ボランティア募集の中に学習の一環として中学生を募り、地域貢献のひとつに取り込む事は可能でしょうか。

#### 事業 No. 9 電子図書館事業

電子図書にアクセスできる環境整備は進んでる中周知活動に頭打ちしてる感じがあるのと、大人の利用減の理由として電子図書へのアクセスの操作がわからない場合が多いと思われます。周知活動とともにアクセス方法の周知も必要と感じる。

#### 事業 No. 10 二十歳の集い式典事業

二十歳の集いのオープニングセレモニーには、新庄北幼稚園児の太鼓演奏と、當麻小の児童の金管クラブの演奏で始まり、新成人たちも子供たちに声援を送るなど、活気のある式典であったように思います。今後も、新成人が中心となり、葛城市独自の心に残る思い出づくりの企画・立案を期待します。

新成人の実行委員皆さんのアイデアで、充実した内容の式典となっている。

地区別にわけて二部制には、賛否があると思いますが、その議論には実行委員の方々と再度議論されてはと思います。毎年出席したくても参加できない方や会場に入れない方々への配慮が必要だと思えます。

#### 事業 No. 11 青少年健全育成事業

対面での活動が制限される中、各種団体の連携が図れていないのが現状で数年前から同じ問題点の指摘が上がっている。そのためになかなか子どもの立場、目線まで活動の範囲が及んでいない気がします。子どもに寄り添える、また、目に見える活動も必要と考えます。

#### 事業 No. 12 学校・地域パートナーシップ事業

とてもありがたい活動であると感謝しております。ボランティアの確保が急務とあります。まだまだパートナーシップ事業には保護者の敷居が高く活動内容も不明な所も多く、やりたくても知らなかった人も多いと聞きます。もっと楽しい活動の周知と地域の方々への募集も必要と考える。

### 事業 No. 13 生涯学習まちづくり推進大会事業

生涯学習活動の一環として、長年にわたり、地域の行事や取り組みなど各地区の活動について工夫を凝らした形で紹介され、新たな発見を見つめられた事業でもあったと思います。今年度で最後となると少し残念ですが、市内小・中学校生の作文発表や菊花展等の表彰式などは、場を変えての継続を希望します。

事業の終了とあります。全分館一巡とありますが最終報告とし、メリット、デメリットなど協議し、生涯学習として今後役立てる新たな形で活動される事に期待します。

### 事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務

コロナの影響で中止であったが、市民の皆様も楽しみにしている行事なので、今後とも継続事業でお願いします。

### 事業 No. 15 中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業

葛城市當麻複合施設整備を各施設の事業見直しのタイミングと考へ、運営方法や内容について検討していただきたい。

### 事業 No. 16 地区間教室・講座事業

評価シートでの意見ですが、今後の改善と取り組みに向けた改善が必要と見受けられました。

### 事業 No. 17 文化振興事業

葛城市當麻複合施設整備を事業見直しのタイミングと考へ、企画・運営方法や内容について検討していただきたい。

見識の中にありますが、事業やノウハウの引き継ぎが出来ていない状態では市民サービスの欠落に近い感覚にあると思います。よりスムーズに確実なサービスに向けての実施をお願いします。

### 事業 No. 18 展示(常設展・特別展等)事業

小、中学生は学びの中で日本史、世界史を学ぶ機会がありますが、地元葛城市の学びについての機会が少ないと感じます。歴史博物館の多様な利用で、子ども達へのアプローチもお願いします。

#### 事業 No. 19 歴史講座開催事業

No. 18と同評価 小、中学生は学びの中で日本史、世界史を学ぶ機会がありますが、地元葛城市の学びについての機会が少ないと感じます。歴史博物館の多様な利用で、子ども達へのアプローチもお願いします。

#### 事業 No. 20 埋蔵文化財等調査事業

再度の意見になりますが、教育目的で発掘調査現場等と教育現場の連携で子どもにも興味と経験をあたえてほしいと思います。

#### 事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業

市民体育祭の名称が、市民スポーツのつどいに替わり、市民一人ひとりが自由に参加できる内容であったと思います、アスリートとともに、楽しくスポーツに参加するという自由な形でのスポーツが市民のための体育のつどいであって、本来の姿ではないのかなと感じました。

No. 21の事業推進を行い各種スポーツ大会につなげ、市民の健康増進や競技向上に向けての見直し等も必要な時期にあると思います。誰でも気軽に参加できるような事業に期待します。

#### 事業 No. 23 体育施設の管理運営事業

令和13年の奈良国体の葛城市での競技誘致に向けて施設整備や周知などに期待します。特に相撲競技の誘致に期待します。

## (2) 総評

主要な23事業について、事務局・各機関は「A 評価…3、B 評価…15、C 評価…4、評価不能…1」と自己点検しています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を徹底し、できる限り事業が開催できるよう協議と検討を重ねました。その影響もあり、前年度に比べてB 評価「優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている成果」と判断される事業が多くあります。改めて、それぞれの取り組み状況を振り返りたいと思います。

今後も、事業の対象となる市民の皆様の満足度を第一に考え、ファシリティーマネジメントに基づいて、PDCA サイクルで事業遂行をしてまいりたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもとに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

いただきましたご意見を真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを感じていただけるよう、関係者皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

令和5年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会